

2022. 4. 24 (日) ヨハネ20:24~29

**20:24** 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

**20:25** そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

**20:26** 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

**20:27** それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

**20:28** トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

**20:29** イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

#### <説教>

私たちの罪のために、私たちの罪をその身に負われて十字架で死なれたイエス・キリストがよみがえられたこと（復活）は、私たちのキリスト信仰の核心（中心となる大切なこと）であり、また実質（内容また本質）と言うべき事実です。

「キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。」（I コリント 15:14）と使徒パウロは私たちに言っています。

キリスト者を迫害するためにダマスコへ行く途中のパウロ（当時はサウロ）に、よみがえりのイエスが〈最後に〉（同 15:8）現れ、パウロをご自分の復活の証人として召し、〈ほかのすべての使徒たちよりも多く働〉く（同 15:10）者と造り変えてくださいました。

本日の聖書箇所には、よみがえられたイエスが〈十二弟子〉の中では最後に〈デドモと呼ばれるトマス〉（ヨハネ 20:24）に現れてくださったことが書かれています。

ヨハネの福音書 20 章を初めから見ると、よみがえりのイエスは〈週の初めの日〉の朝早く先ずマグダラのマリヤに現れ、その日の夕方には他の弟子たちに現れて「平安があなたがたにあるように」とお語りになってご自身の手と脇腹を彼らに示され、〈主を見て喜んだ〉弟子たちに「聖霊を受けなさい。…」と言われました（20:1-23）。

しかし、そのときトマスは〈彼らと一緒にいなかった〉のです（24）。

それで、イエスと会った〈ほかの弟子たち〉が「私たちは主を見た」とトマスに喜んで報告し、証言したのですが、その証言をトマスは信じないで、「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に（私の）指を入れ、その脇腹に（私の）手を入れてみなければ、決して信じません」と頑固に言い張りました（24-25）。

「決して信じません」という言葉には二つ否定語が並べて使われていて、それ以上ないほどの強い調子・気持ちでトマスが言ったことが分かります。

そもそも一度完全に死んだ人間がよみがえるなどということは自分の理性や経験によれ

ば到底信じられない、理解できないということだったのでしょ。

だから、ほかの弟子たちがいくら「**私たちは主を見た**」と言っても、私はまだ見ていないのだから、「私の」感覚で、「私の」理性や経験でちゃんと確認しなければ信用できないとトマスは考えたのでしょ。

そして、「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。」(マタイ 16:24-25)と言われたイエスを信じてイエスについて来たのに、そのイエスが最後にダヤ人たちに捕らえられローマ人ピラトに引き渡されて十字架につけられて殺されてしまったというはいったいどうしたことか、というようなイエスへの疑問や失望があったのでしょ。

また、イエスはどのようにして自分がほかの弟子たちと一緒にいなかったときに現れたのか、自分だけが除け者にされたというような不満もあったかもしれません。

そんな不信仰で、イエスへの信頼が揺らいでいたトマスの頑固を打ち砕き、死んでいたような信仰を復活させ、更に確かなものにしようとイエスはトマスの前にも現れてくださったのです(26-29)。

「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。」との言葉は、トマスが言い張っていた言葉、「その手に釘の跡を見て、釘の跡に〔私の〕指を入れ、その脇腹に〔私の〕手を入れてみなければ、」に一つ一つ対応し、答える言葉でした。

そして、「決して信じません」と言い張ったトマスの言葉に同じように対応して、「**信じない者ではなく、信じる者になりなさい**」とイエスは言われました。

あれほど頑固に言い張っていたトマスだったのに、その変わり様は驚くべきものであり、もしかしたらトマス自身が一番驚いたかもしれません。

しかし、それが「**信じない者ではなく、信じる者になりなさい**」とお命じになっただけでなく、不信仰なトマスの信仰を回復させたよみがえりのイエスの力、神の力です。

トマスには見えなくても、よみがえりのイエスがトマスと一緒におられて、かつてイエスが予め言っておられたことや弟子たちの証言を頑固に信じようとしないう彼の不信仰で疑いに満ちた言葉の一つ一つを全部聞いておられたこともトマスは知りました。

そんな不信仰で疑い深く罪深い自分の思いと言葉と態度をすべてイエスは知っておられたにもかかわらず、そんな者をイエスは見捨てず、あわれんでくださり、愛してくださり、ご自身を現してくださり、むしろイエスこそが私に触れてくださったのだ、と現実によみがえって生きて力をもって働いておられるイエスをトマスは知ったのです。

そしてトマスはイエスがよみがえられたことを信じただけでなく、そのよみがえりのイエスが**〈私の主、私の神〉**だと告白しました。

確かにイエスは私たちの罪のために十字架で死なただけでなく、よみがえられてこそ、**〈私の主、私の神〉**なのです。

十字架で死んでくれただけならイエスは**〈私の主〉**でも**〈私の神〉**でもない「ただの人」です(世界一の偉人、人類最高の愛と犠牲的精神と行動の人ではあったでしょうが)。

それだけでは、「わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。」と言われて、私たちが信じてイエスについて行ったとして、本当にイエスのためにいのちを失ったら、

本当にいのちを見出すことができるのかどうか、私たちが本当にこの地上の生涯のすべてをお任せし、その先のいのちまでもお任せすることができる〈私の主、私の神〉かどうか不安で仕方ないことになってしまいます。

しかし、イエスご自身が先ず私たちの罪のために十字架で死なれ、そしてよみがえられたことによって、神を信じ神に従い〈いのちを失う者はそれを見出す〉ことは決してうそではない、本当なのだということを身をもって証明してくださったのです。

イエスを信じイエスに従う者（私たち）も、イエスのためにいのちを失ってもイエスと同じようにいのちを見出すことになるということは本当だ、信じるに足ることだ、いや信じるべきことだという確証をイエスが私たちに与えてくださったのです。

イエスがよみがえられたので、この地上でイエスがお語りになったすべてのみことば、教え、行われたすべてのみわざが真実で意味あることだったと証明されたし、イエスが〈私の主、私の神〉であることが確だと証明されたのです。

このよみがえりのイエスが、私たちを罪故の滅びから救い、不信仰を打ち砕いて克服させ、全生涯を支配し、導き、助けてくださる〈私の主、私の神〉です。

その主イエス・キリストが、今日も聖書を通してご自分を〈見ないで信じる〉〈幸い〉に私たちを招いてくださっているのです。